

# 城崎そぞろ歩きニュース 2019年3月

～安心・安全にそぞろ歩きができるまちづくり～

発行：城崎温泉交通環境改善協議会 会長：西村総一郎、検討部会長：富田健太郎

事務局・お問い合わせ先：豊岡市都市整備部建設課（縄手、糸賀）Tel. 0796-21-9007

## 「城崎温泉交通環境改善のための報告会」を開催しました

日 時：2018(平成30)年11月8日(木)

午後1時～3時

場 所：豊岡市城崎振興局 2階大会議室

出席者：10人、豊岡市7人、兵庫県2人  
土井勉大阪大学特任教授（アドバイザー）  
コンサルタント3人

内 容：平成29年度の取り組み報告  
平成30年度の活動計画



◆意見交換のようす

報告会では、西村会長からの挨拶、富田検討部会長からの趣旨説明と事務局からの詳細説明への質疑に続き、課題として抽出された湯の里通りでの駐停車対策や桃島バイパスの整備に向けて地元として取り組むべき事項について意見交換をしました。

### 西村会長の挨拶要旨

城崎の交通環境については、城崎大橋の整備に引き続いた形で桃島バイパスを実現させるため来年の社会基盤整備プログラムに載るように、地域としても努力していく必要があります。今日のような地道な活動が兵庫県にも伝わるのが大切です。

また、このような事業は「総論賛成、各論反対」といったことがよくあるが、将来的に次世代に地域を伝えていくために、交通の課題は我々の世代で解決しておきたいものです。

### 富田部会長の趣旨説明要旨

今日は、交通社会実験の実施と分析を報告させていただき、地域の皆さんからのご意見や感想をお伺いして、次につなげていく会にしたい。そのために、意見交換の場も設けている。バイパスについては、できることだけでなく城崎の町民がどういう街の姿を描けるかが問われています。

しかし、協議会や検討部会での少人数の活動だけではこのような取り組みを全うすることは困難で、町民の皆様の多くのご意見を反映させながら取り組まなければ実現しません。

## 1. 平成29年度の交通社会実験の内容

目 的：城崎温泉街でのより快適な「そぞろ歩き」の実現のために、「四所神社前～一の湯前」間の直線区間で歩行者空間の拡大の効果を検証する。

実施内容：両側の区画線（白線）を内側に50cm移動して車線を絞り込み、歩行者空間を拡大する

実施時期：平成30年2月21日(水)～3月22日(木)



◆実験中の白線のようす

四所神社前横断歩道付近

## 2. 実験結果の概要

### (1) 城崎温泉街の交通の特性

①歩行者交通量の多い時間帯は、午後2～5時台であった。

#### ②歩行者通行の特徴

- 中核市の主要駅前商店街である姫路市御幸通商店街に匹敵するほど歩行者が多い（休日：6～8千人／12時間）
- 団体客などの大きな人の塊が波状的に行き交うとともに乱横断が多い

③路肩への駐停車が、そぞろ歩きと他の自動車の通行を阻害している。

### (2) 区画線引き直し社会実験から見たこと

④歩行空間が増え、並んで歩ける人数が2人から3人となった。

⑤自動車も走行速度や停滞には、影響はなかった。

⑥路肩への駐停車回数や時間には、影響はなかった。

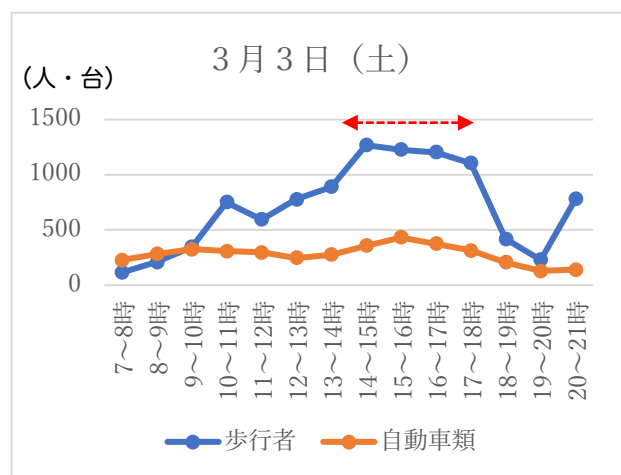
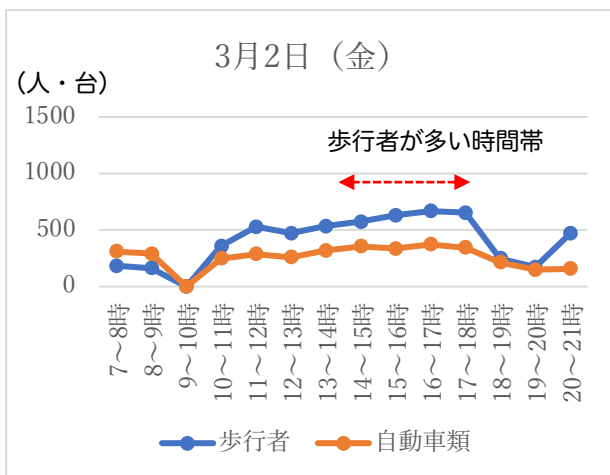
⑦住民からは、慎重に取組を進めることを望む声が多かった。

⑧対向車との離合が困難など、自動車の運転が難しくなったとの指摘がある。

※丸数字は、以下の解説と対応。

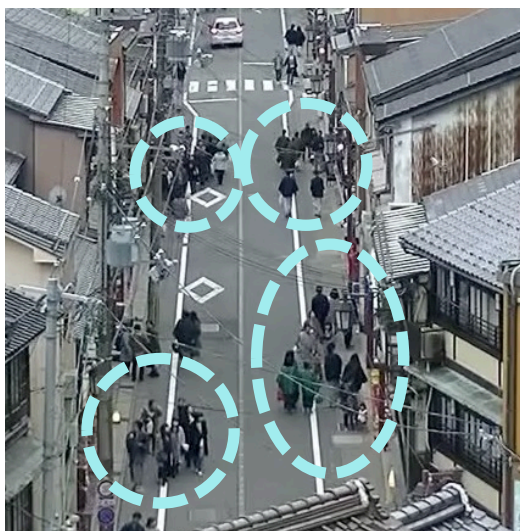
① 歩行者交通量の多い時間帯は、午後2～5時台であった。

<交通量時間推移グラフ>



※9～10時欠測

### ②歩行者通行の特徴



・団体客などの大きな人の塊が波状的に行き交う



・乱横断的な人の動きが多い



③路肩への駐停車が、そぞろ歩きと他の自動車の通行を阻害していることがわかった。(主に営業車)

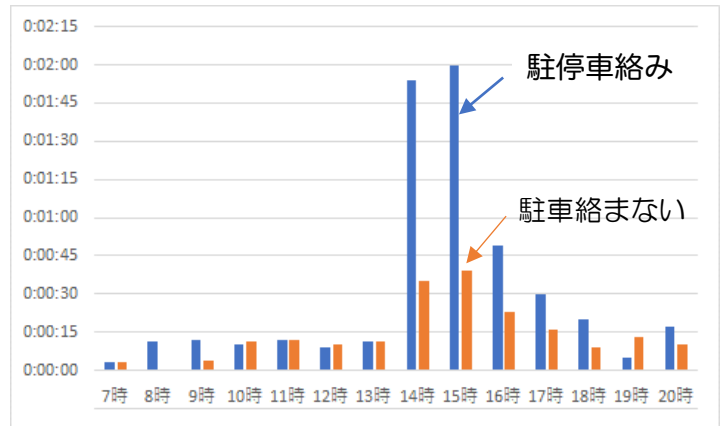


・駐停車は車道側を歩かせる



・対向車にも影響があり危険度が増す

・駐停車があると停滞時間が多いことがわかる。  
(右図参照)

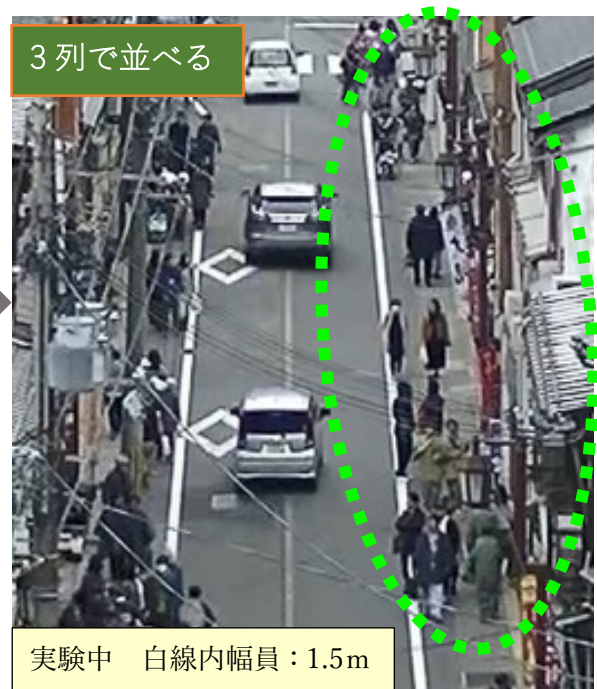


◆時刻帯別駐停車絡み別平均停滞時間グラフ

④歩行空間が増え、ゆっくり並んで歩ける人数が2人から3人となった。



今まで 白線内幅員：1.0m



実験中 白線内幅員：1.5m

⑤自動車交通への影響（停滞）は、実験前後で大きな差はなかった。

- ・ 停滞回数は時間帯及び4時間トータルとも実験中（3月3日）の方が少ないが、問題となるのは回数より時間である。
- ・ 停滞時間は、実験中の14時台と15時台の方が長い、16時台と17時台は実験中の方が短くなっており「車道が狭くなることにより交通停滞が激しくなる」とは言えない。

調査日		14時	15時	16時	17時	計
停滞回数	*3月3日 実験中	26	17	23	14	80
	3月31日	30	21	32	23	106
停滞時間	*3月3日 実験中	0:29:36	0:24:12	0:17:52	0:08:33	1:20:13
	3月31日	0:13:46	0:11:19	0:30:21	0:12:58	1:08:24

注：赤字は停滞回数・時間が多いときを示す。

⑥路肩への駐停車（回数や時間）は、実験前後で大きな差はなかった。

- ・ 交通が最も混雑する時間帯（14時～18時）での実験区間の駐車状況は下表のとおりである。
- ・ 4時間トータルで見ると、金曜日の駐車台数は、実験中（3月2日）が実験後（3月30日）より多いが、駐車時間は逆に実験中の方が短い。一方、土曜日は、実験中（3月3日）の方が駐車台数も少なく、駐車時間も短くなっている。この傾向は、時間帯別で見ても同様である。
- ・ 「歩道を広げることにより駐車が増える」とは言えないことになる。

調査日		14時	15時	16時	17時	小計
駐車台数	*3月2日(金) 実験中	9	11	3	3	26
	3月30日(金)	6	7	3	4	20
	*3月3日(土) 実験中	5	7	6	9	27
	3月31日(土)	8	13	7	3	31
駐車時間	*3月2日(金) 実験中	0:30:35	1:11:40	0:22:49	0:12:03	2:17:07
	3月30日(金)	1:39:19	0:28:47	0:09:46	0:11:57	2:29:49
	*3月3日(土) 実験中	0:16:36	0:09:30	0:15:59	0:30:28	1:12:33
	3月31日(土)	0:42:48	0:51:16	0:27:28	0:06:41	2:08:13

注：赤字は駐車台数・時間が多いときを示す。

### 3, アンケート調査結果

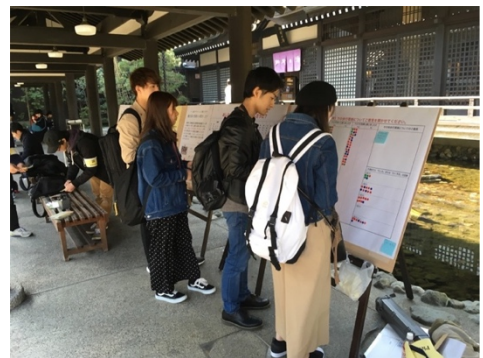
#### (1) 観光客へのシール張りアンケート

観光客の意見を聞くために、御所の湯前でシール貼りアンケートを実施しました。

日時：平成30年3月13日（火）15時～19時

場所：御所の湯前のポケットパーク

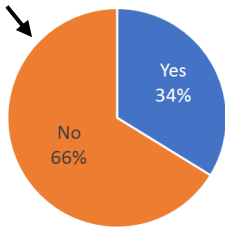
天候：晴れ、最高気温 23.4℃（豊岡市）



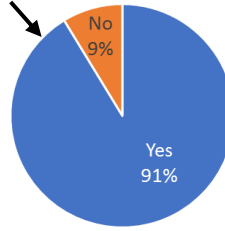
＜シール貼りから読み取れた観光客の意識＞

- ・ 車が多く危険と感じ、安全・安心感に乏しいながら、気持ちよく歩けた。

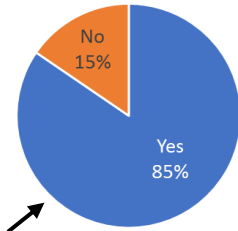
問1. 安全・安心に歩けましたか



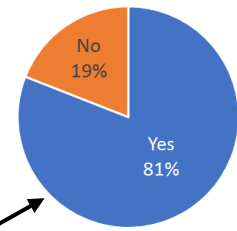
問3. 車が多いと思いましたか



問2. 気持ちよく歩けましたか



問4. 車が危険と感じましたか



(2)湯の里通り周辺住民アンケート

①実施概要

配布：300通・平成30年2月19日(月)

回収：105通・3月20日(火)まで

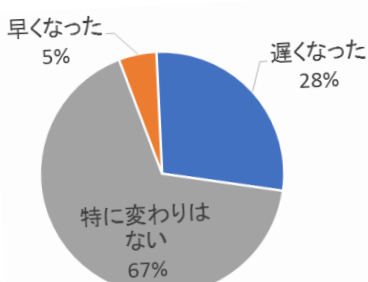
回収率：35%

②集計概要

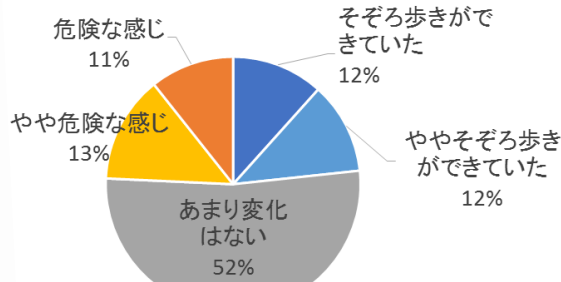
ア・実験時の自動車の走行スピードは変わったと感じたか

イ・実験時は普段に比べて、歩行者の様子は

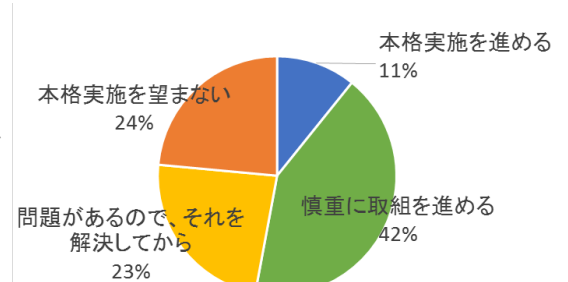
ウ・今回の実験を本格的に進めることについて



<ア>



<イ>



<ウ>

③自由意見欄

次のような意見が書かれていました。

- ・実験内容は歩行者にとっては良いと感じた
- ・歩行者のマナーに問題がある
- ・自動車の通行に困難をきたす
- ・あまり変化を感じなかった
- ・路上駐車が増えた、増えそう

④アンケートのまとめ

- ・自動車の通行については、速度がやや遅くなったという意見もあるが、特に変化がないという意見が多数を占めている。
- ・歩行者の通行の様子は、変化がないという回答が半数でそぞろ歩きについての意見もばらついており、定まった傾向は見られない。
- ・取り組みの実施については、慎重に運ぶべきとの意見が多い。

4. 桃島バイパスについて

県からは、桃島バイパス整備の可能性が示されましたが、完成時にバイパスを利用して街中を迂回する車両数が少なく、安全・安心なそぞろ歩きが実現しないという課題が指摘されました。

桃島バイパスと同時に城崎温泉街での交通規制などの対策を実施しないと整備効果が十分に発揮されないことが指摘されました。



## 第2部 意見交換の概要

### 1. 報告事項への質疑応答

#### (1)事故について

質問：実験中に人と車の軽い接触事故等があったが、聞いているか？

回答：報告は受けていない。

意見：車のサイドミラーが外に出ていて、歩行者と接触することが複数回あった。実験については、車道を狭めることがよいのかどうか再考してもらうとともに、3月よりも車の多い夏のほうが時期がよいのではないか。実験区間も、旅館の多い部分に拡大してもよいのではないかと思う。

地元住民からも、慎重にやってほしいとの意見が多い。実験のやり方については、協力していくので、十分話し合って進めていただきたい。

#### (2)調査項目について

質問：狭くなった分運転が難しくなったという感想がある。大型車の影響が大きいと思われるので、今後の調査では車のサイズにも着目して通行阻害をみてほしい。

回答：運転の難しさといった心理的なことについては調査できておらず、課題としたい。通行阻害については、車のサイズよりも駐停車が最も大きな要因であることはビデオからも明らかになっている。

#### (3)桃島バイパスについて

意見：バイパスができれば地域としてはどうするの、と県から問われていると思う。劇的な変化を実現するために、地域が多少の不便を我慢するといった取り組みが必要なのではないか。

#### (4)ビデオについて

質問：ビデオには大型車両の通行シーンが写ってなかったが、どんな状態だったのか？

回答：大型バスなどは対向車がなければ流れている。全但バスは停留所があるので1分程度停車したりして、当然後ろの車は停滞している。旅館送迎バスは、既に湯の里通りでは止まらないようにして、交通環境改善のためにご協力いただいているようだ。

意見：街の中に大型車両が入ることが必要なのかどうか疑問だ。旅館の前にバスを止めたいという欲求はあるだろうから、一方通行や時間規制などの対策もありうるのではないかと思う。

## 2. 意見交換

### (1)旗揚げアンケート

参加者の実験に対する受け止め方等を問い、参加者の傾向を共有した。

- ・複数回答制のため、参加者数と回答数は一致しない。
- ・多くの参加者が歩行・車両で通行した。
- ・歩きやすくなっていると同時に、自動車の運転に支障があると指摘している。
- ・実験への理解度は高いが、そぞろ歩きの充実には、さらに工夫が必要である。

#### 問1・実験中に、実験区間を通行しましたか？

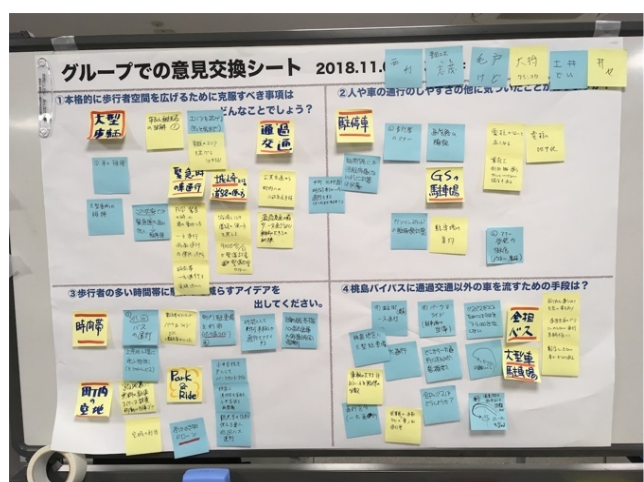
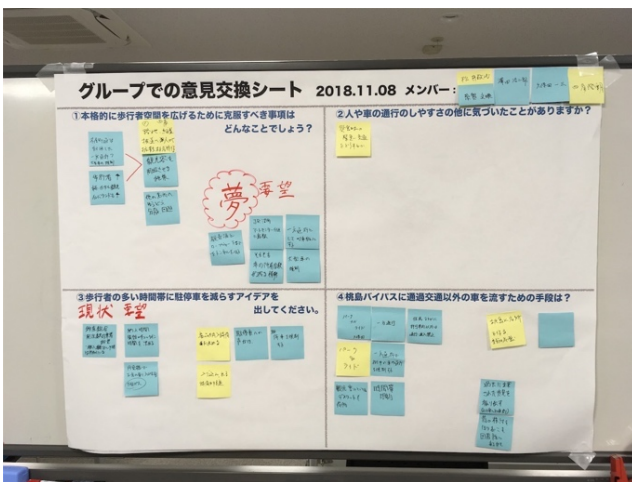
番号	内容	人数
1	歩いて通行した	13
2	車で通行した	11
3	通行しなかった	2
4	その他	0

## 問2・実験で広がった歩行空間とそぞろ歩き

番号	内容	人数
1	自分で歩いてみて、そぞろ歩きがやりやすくなった	6
2	観光客でゆったりと歩く人が増えた	9
3	自動車の運転がやりやすくなった	8
4	子ども達が歩きやすくなった	1
5	実験前と変わらなかった	4
6	その他	1

## 問3・実験の意図についてどう感じましたか？

番号	内容	人数
1	実験の意図が分からなかった	1
2	意図はニュースなどで分かっていた	9
3	この取組みに共感できる	9
4	もっとそぞろ歩きができるような工夫がほしい	14
5	現状で十分だと思う	1
6	その他	0



## (2)グループでの意見交換

少人数のグループに分かれて、4つのテーマについて意見交換を行った。出された意見を集約すると次のおり整理できる。

### ① 本格的に歩行者空間を広げるために克服すべき事項はどんなことでしょうか？

- 大型車の規制や一方通行などの交通規制により車の通行量を減らすことにより、歩行者空間を広くする環境を作っていくことが可能となる。
- 無電柱化による道路空間の確保が必要な対策である。
- 一方では、湯の里通りへの歩行者の集中を分散させることにより、相対的に歩行者空間を広げることとも考えられる。
- いずれにせよ、市民と観光客の理解が得られるような城崎としての道の使い方を「城崎ルール」などとして作り上げていく必要がある。
- このほか、災害時などの緊急車両の通行も考慮されなければならない。

## ② 人や車の通行のしやすさの他に気がついたことは？

- 不法駐停車対策には、駐車場の適切な利用がなされる必要がある。
- 歩行者、車の通行マナーの啓発が必要である。

## ③ 歩行者の多い時間帯に駐停車を減らすアイデアを出してください。

- 旅館や土産物店等に関係する車両通行の時間規制により、歩行者の多い時間帯に通行車両を減らすことを考えるべき。ただし、業界でも一定の時間規制への取り組みがある。
- パーク&ライドによる車両の流入抑制を導入することが考えられるが、街なかの移動手段の確保がペアである必要がある。

## ④ 桃島バイパスに通過交通以外の車を流すための手段は？

- 湯の里通りの一方通行化により、桃島バイパスへの車の誘導が可能となるが、どの区間を一方通行化するかの検討が必要である。
- パーク&ライドについては、以前の観光客へのアンケートでは拒否感はなかったが、実際面での煩わしさは否めないため注意が必要。

## 3. 報告会・意見交換のまとめ

- 湯の里通りでの歩行者空間の拡大についての交通社会実験は、一定の効果があることが確認できた。
- 車の通行・運転に難しさが増すといった課題が指摘された。
- 課題を克服する手段として、以下があげられた。
  - ① 自動車の通行規制による自動車交通量の低減
  - ② 歩行者を周辺観光施設や道路へ分散させ湯の里通りの歩行者交通量を低減
  - ③ 無電柱化による道路空間の拡大
- 現道路空間では、自動車や歩行者の交通量減少が課題を克服し社会実験の効果が最大限発揮できると考える。
- 区画線の引き直しにより自動車と歩行者の道路空間利用の再配分は、バイパスの実現により交通量が減ったあとに実施することが効果的であると解される。

### <今後の取組み方針>

- そぞろ歩きを愉しむための城崎ルールについて検討していく。
- 今年度は、湯の里通りでの駐停車を対象に取り組みを検討することとし、配送業者や卸小売業者、旅館等への調査等を行い搬出入の実態を把握した上で対策を検討する。
- 桃島バイパス整備を視野に入れ検討を進める。
- 湯の里通りでの歩行者空間の拡大については、桃島バイパスの使い方といった交通対策と一体で検討を継続する。

### 城崎温泉交通環境改善協議会検討部会からのお願い

この協議会と検討部会は、安全・安心にそぞろ歩きを愉しめる街を目指して対策を考えています。

例えば駐停車といった道路の使い方など、今までに城崎の中で作りあげられてきたルールをもう一度見つめなおし、ニーズに合わせていく必要があると考えています。

桃島バイパスもその取組の一つと捉えています。課題もあるため地域の皆さんと一緒に考え、解決していきたいと思っております。

取り組みへのご協力や感じたことなどのご意見をよろしくお願ひいたします。